

令和 6 年度人と自然の博物館協議会協議概要

日 時 : 令和 7 年 3 月 4 日 14:00~15:30

場 所 : 県立人と自然の博物館 大セミナー室

議長) 令和 6 年度のひとはく活動内容について説明をお願いします。

—令和 6 年度ひとはくの活動内容、中期目標の達成状況、篠山層群の恐竜に関する最新の研究成果について報告—

議長) 今報告事項として 3 つほど説明をいただきました。全 3 つを通じて何かご質問等ございませんでしょうか。

どなたからでも結構ですので、ご発言をお願いできればと思います。いかがでしょうか。では、議事後でご質問があればお願いしたいと思いますので、次の議事に移っていききたいと思います。

令和 7 年度ひとはくの主な事業について説明をお願いします。

—令和 7 年度ひとはくの主な事業について説明—

議長) ありがとうございました。

それでは先ほどの報告案件と今の議事、令和 7 年度の主な事業について、ご質問とかご意見をいただきたいと思います。

いつも聞かせていただいて、相変わらず、すごい活動をされていると思っております。一番最後のフラワータウンの活性化に向けた屋外プログラムの推進ということで、身近な方々を中心にしておられる「そとはく」ですが、これはどれぐらいの頻度で、大体どの程度の集客力か、そのあたりの具体的な事柄があれば教えて欲しいと思います。

博物館) キッズサンデーを毎月やっておりますが、(そとはくは) それに合わせて月 1 ぐらいのペースですね。ただ、夏は暑すぎるので、「うちはく」の方がいいかなという時期は、やってなかったりします。季節の良い時を中心に、月 1 ぐらいのペースでやっております。

議長) コレクションナリウムはかなり活用されておられるんですね。

博物館) コレクションナリウムが拠点になって、その周りに人が集まるとか、(コレクシ

ヨナリウムの) 中でもしております。夜にしていると非常に外から見て綺麗です。

議長) そういう活用を(している)。ありがとうございます。

委員) 報告ありがとうございました。冒頭報告の中期の報告のところで、重点目標 3 の 2 の「県政課題の関連論文・著作・研究発表数」がまだまだ課題があるということをおっしゃっておられました。先ほどは令和 7 年度の事業についてご説明いただいておりますが、具体的に、こういうテーマに注力して研究をしていきたいとか、ここの達成率を上げるために具体的な取り組みなどが、もし決められているようであればお知らせいただきたいと思います。

議長) いかがでしょうか。

博物館) ご質問ありがとうございます。企画調整室です。

県政関連の研究で、研究論文の成果自体、全体で言うと目標を十分達成しておりますが、県政関連とかと関連づけて研究していくというところで、研究員が、新しい研究員もこの数年入ってきておりますし、今研究は割とグローバルな視野で研究することがアカデミック全体では求められている部分もありつつ、でもやっぱり県立の博物館としてそのグローバルな視点での研究というのをいかに地域に還元して、さらにそれを論文化していくか、これから館内でしっかりそれをどういうふうに円滑に進めていくのかというのは、議論しながらしていけないと考えています。

まだ具体的にそこの方策をどういうふうにしていくかというのは、しっかりとみんなでオーソライズできていないのですが、結構若手の研究員が、県下でも行ったことのない場所とか地域がたくさんあるので、そういったところに研究員が行って自分の研究のフィールドとして使えるような、そういう魅力を研究者自身が地域で発見しつつ、行った先でアウトリーチ活動をしたりとか、何かセミナーをしたりするというような、そういう研究と資料収集とセミナーとアウトリーチを一体的に連動させるような活動はできないかなというのは、まだ企画段階ですけど考えているところです。

委員) 今の委員のご質問に関連するところで、私も少し気になっていることがあります。この協議会に参加させていただいて常々思うところですが、この中期目標の数値で、達成率の数値を見ると、どうしても達成率が低いところに目がいてしまいます。これはどうしたらいいのかなと考えていきますと、私は以前から、量、こういう数値の評価だけではなく、質的な評価というもの、もう少しできないのかなと感じているところです。

例えば県政の課題の発表数は確かに達成率は少ないのですけれども、先ほど恐竜の

研究のご説明をいただきまして、お話を聞きしますと、県政を超えて、もう日本レベル、さらには世界レベルで見ても、非常にすぐれた成果を上げておられると思います。

そこをきちんと、周りから見てもわかるように評価をしていただくという方がいいのではないかなと感じております。恐竜のところは非常にわかりやすいのですが、おそらくそれ以外の事業でも、もっと評価できるものがあるのではないかと思います。

例えば、次年度の事業の5ページのところに、エコロコプロジェクトのご紹介もしていただきましたけれども、これは単なる人材育成にとどまらず、県の分任事業ということですので、これも大きなシンクタンク事業をされていると思います。

そういったところを繰り返しになりますけれども、質的に（評価していく）、やっぱりこういう子供たちの活動自体は、結構、全国的に見てもすごいことをされていると思います。私は大阪の方にはいるんですけども、大阪の方に比べると、もう兵庫県の事業は本当に進んでいると思っています。そういったところをもっとPRしていただけたらいいのかなと今回も改めて感じました。

議長）はい、ありがとうございます。

中間中期目標で今数字だけになっており、そういう質的にもっとアピールされたらどうですかということですが、その辺りはどうでしょう。

今日恐竜の発表で非常によく、1側面がわかりましたけれども、他の研究部でもいろんな先進的なことをおやりになっていますね。今後の課題かもしれませんが、そのあたり、どのような議論をされてますでしょうか。

博物館）企画調整室です。今、委員にご指摘いただいたように、研究に関しては参考資料で査読つき論文のタイトルであるとか、科研費の受託状況の情報は整理して、こういった情報は、特に研究の中身については、アブストラクトというか概要を参考資料の3ページ目につけております。こういった最新の研究のトピックはホームページ等でも公表して、ひとはくの最新の研究に触れていただけるよう努力はしているところです。

あと定性的な評価というのはすごく重要なご指摘かと思しますので、どうすればこの数字以外のやり方で、ひとはくの網羅的なすごく包括的な活動をPRできるかというのは、しっかりと考えて発信していきたいと思っています。

これもまだ情報は整理できていないのですが、これまでひとはくで地域展開度という指標で、兵庫県下の旧市町村で、どの地域にアウトリーチ活動で出て行ったかというところを指標に設定して、その兵庫県下のすべての旧市町村に行こうということで活動を展開してきています。それはアウトリーチ活動だけではなくて、地域の活動の支援であるとか或いは研究員の研究プロジェクトでも、兵庫県下を始め全国いろんなところでフィールドを持っているところです。日本全国或いは兵庫県下でどう

いったところに研究或いはアウトリーチで、ひとはくの活動が出ていっているのかというのマップ上にプロットするとか、そこで色分けをして可視化していくというようなことで、これだけ網羅的に兵庫県下に、ひとはくが出て活動しているということがわかるような情報も発信できたらと考えております。

議長）ありがとうございます。今の発言に関係して、2つあると思うのですが、論文とかそういうものの数と質の評価ということ、それからもう1つ、この博物館でアウトリーチ活動とかいろんな連携事業をおやりになっているので、その数やされたことをいかに共有化するかということです。関わっている人のレベルアップに繋がるので、いかに到達点というか、いろんなノウハウというかそういうものを共有化するという仕組みが非常に重要かなと思います。また先ほど説明の中で、3ヶ月に1回報告会をするということをおっしゃっておりますけれども、それをきちんとしっかりフォローしていかれるということも非常に大事なかなと思います。

それから質の評価に関しては、先ほど説明がありましたようにトピックス的なところで、これもやっぱり外に向けて発信していくとか、こういう中でも、参考資料でなくて、本編にきちんと載せていただいても良いという気がしますので、今後ご検討願えればなと思います。

委員）今回初めて出席させていただきますが、まずフラワータウンの活性化ということではいろんなプログラムを計画していただいております。新聞等々で発表させてもらっておりますけれども、今フローラ88が2月末に閉店なりまして、その後、またイオンさんが再出店していただけるということになりまして、その際、その横にあるフラワー市民センターと一緒に複合施設にして欲しいということで私の方から、イオンさんの方に投げかけている状況であります。正式回答は今待っている状況にありますけれど、そうなりますと、2年か3年後に（イオンが）再出店、そして、市民センターが複合化し、フローラ88の場所に複合施設ができ上がった場合は、子育て世代からシニア世代までのいわゆる多世代の交流、コミュニティが今まで以上に活発化するということを展望標榜しています。イオンさんも地域コミュニティに資する商業施設をしっかり作っていくということで約束していただいておりますので、今まで以上にこのひとはくさんと連携をして、いわゆるフラワータウンのセンター地域の活性化に伴って、いろんな意味で市外からの集客もできるような連携を今まで以上にやっているとっております。そういう意味では、フラワーセンター活性化、今、いわゆるフラワータウンのリボーン計画ってしておりましたけれど、なかなか何も見えてない状況が続いて、ようやく今、イオンさんとの、いわゆる商業施設の複合化によってスタートが切られたとこんな状況になっています。先ほど申し上げたように、今まで以上に連携を図らせていただいて、魅力あるフラワーセンターの地域を作っていきたい

と思っておりますのでまた、係もしくは私の方から、いろんな提案をさせていただきたいと思っています。逆に、いろんな提案をいただけるのであれば、いただければと考えておりますのでよろしくお願いします。

議長）はい、ありがとうございます。非常に前向きなお話でした。先ほどフラワータウンの活性化に向けた屋外プログラムというのは、市とかいろんなところと連携しておやりになっておられるんですね。その中でいろんなことが課題というかな、今後に向けたことも、より積極的に進めていただければありがたいなと思います。

委員）次世代セミナーの推進ということで、すごく今後専門性の高い連続セミナーを開催するということで、中・高生・大学生もここの博物館に来ていただく、いろんなセミナーに参加してもらうということだと思いますが、実際に中・高生をこのセミナーに招くといいますか興味持ってもらって参加してもらうためにはどういう方法をお考えなのか伺いたいなと思っております。

と言いますのは、中・高生が忙しいというのもありまして博物館に来てもらうというのはなかなか難しい。他の博物館でいろいろ共同研究していますと、中・高生が来てくれないかなということをよく言われまして、中・高生も好きそうな企画展を打って、それにあわせてセミナーをすとか、何かいろいろ工夫をどこもされているようですけれども、ひとはくさんの方はどういうことを、中・高生に向けて、来てもらうためのいろんなプロジェクトをお考えなのかその辺を教えていただきたいと思います。

博物館）これまでも関心のある中・高生は来ておりますので、アクセス的に行きにくいというのはあるかもしれませんが、それをもうちょっと見えるようにしようということで別段そのために何か重点的に広報するということは特に考えてないんですけれども、魅力的なプログラムがあれば、おそらく来てくれるだろうという目論見でしているところです。

それと、突然中学生高校生になってから博物館を知るってということには多分ならないと思います。それまでの幼児期から小学生、その一連の流れが、我々の博物館の方はすでにベースとしてはできておりますので、その子たちが中学生になって、高校生になってもこういうプログラムがあるよってということがわかっていけば、少しずつ、利用者は増えてくるのかなと思います。

それからもうひとつ、私どもの博物館は、県立大学の附置研でもありますので、大学の方の、例えば学部の学生さんとかも、大学本体ではなかなか得られないような、体験型でフィールドを中心としたような学びの場とかもニーズがあると思いますので、そちらの方の利用者も可能性としてはあるのかなと考えております。

議長）はい、ありがとうございます。いかがですか。よろしいですか。

博物館）補足です。周知の方法ですが、当館に生涯学習課という部署がございまして、その職員は中高で教師をされていたという方もいらっしゃいますので、そういう方の人脈を使ったり、ということもあります。

あと、我々研究員の方も、近年は探究学習の支援ということで、中高から、特に高校からの要請に応じて、いろんな子供たちの学習の支援をしております。そういう中でいろんな先生との繋がりもできておりますので、そういう人脈を使って、周知を図っていくということもしております。

それから中高の先生方の部会、理科部会というのがございまして、そういうところに我々、職員であるとか研究員が出向いて行って、博物館のセミナーをPRするというような活動も地道にしております。もちろんホームページ、セミナーガイドなどを通じた、一般的な方法で広報するというのもやっております。多方面でいろんなやり方で何とか中高生に来ていただくという努力をしているところです。

議長）はい、ありがとうございます。今、小中高との連携ってありましたけれど、委員お願いします。

委員）本当にこちらの方ではいろいろお世話になっておりまして、例えば小学生中学生の理科生活科作品展であったりとかその展示をさせていただくことで、子供たち、またその関係する保護者の方に、たくさん参加をさせていただいております。本当にいつもお世話になってありがとうございます。

もう一方で、実は2年生の子供たちもよくこちらには来させていただいておりますが、三田市内、特にこちらはフラワータウン駅から歩いて来られるということで交通の便が非常に良いので、その電車、公共の交通機関の学習とともに合わせてこちらの方に参加をさせていただいています。そこで、それこそ企画展であったり、いろんなことに興味を持っているのですけれども、今、企画展等研究委員の皆様が手づくりでされているということで、ちょっと言いにくいところがありますが、今また改善されているのかもしれないですが、実はこれ、2年生の子に若干難しいんですね。ふりがなが振っていないとか、内容がちょっと専門的すぎるであるとか、もちろんそういうのもいいのですけれども、今、キッズサンデーの取り組みとかをお伺いして新たなひとはくビジョンというところで、また取り組みをしていただいているのは非常に嬉しいなというところなのですけれども、また低学年のうちから興味を持てるような内容を少し考えていただければと思います。

と言いますのは、実は小学生の低学年は、ものすごく恐竜好きなのです。もう恐

竜の絵本を朝から抱えて持ってきて恐竜のものまでもしてくれたりとか、僕はティラノサウルス、僕は何々だとか言いながら恐竜の話をずっとしてくれるような子供たちもたくさんいます。

ですから、もちろんそのアウトリーチも大事ですけども、もっともっと子供たちが、またこの地域の方が、フラワータウンの活性化と同時に来られるようなものにしていく取り組みを考えていただけたら嬉しいなと思っています。

実は弥生小学校で勤務をしていたときもありまして、そのときには、もっと子供たちがたくさんいましたから放課後の遊び場って言ったらもうその深田公園なのです。深田公園でたくさんの子供たちが遊んでいました。今、もうその管轄が違うのはわかっておりますが、なかなか深田公園にも子供たちの姿が見えなくなってきました。ですから、こういう自然の中の立地条件を生かして子供たちが、また家族連れが、たくさんここを訪れるというような取り組みを、ぜひまた工夫をしていただけたら嬉しいなと思っています。

先ほどの青空実験室であるとか、キッズサンデーであるとかというところが、もっともっと我々もアピールをしていきたいと思いますので、是非一緒にここがもっともっとこう盛り上がるような取り組みにしていけたらいいなと思っています。

どうしても、有馬富士には鬼公園があって、そこは結構遊べるんですよね。遊びたいという子供たちはそちらの方を選択してしまいます。ですからやっぱり、この魅力っていうのをもっともっとアピールをしていくことが必要かなと感じています。

議長）ありがとうございます。大変でしょうけれど期待が大きいので、逆に研究員の方に頑張っていただければと思います。

委員）三木市は、隣接の地域ですけど実は近くて遠い。三田市に来ようと思ったら大分遠回りして来なくちゃいけないので、ここへ訪れるとなったらバスが主な交通手段ですけど、昨今バス代がすごく値上がりしていたり、バスの確保が難しかったり、ちょっと外へ足を運ぶということが、ハードルが高くなっています。

その中でアウトリーチがすごく達成率が高かったということですけども、ちょっと教えていただきたいのですが、なぜこんなに予想を上回るようなアウトリーチ事業になったのかということと確かこのアウトリーチ、ほぼ無料ですけどいくらか必要経費がかかると聞いたような記憶があるのですが、大体平均これぐらいだったら、行けますよっていうのがわかっていたら教えていただきたい。

多分、内容的には小学生ぐらいが限界な内容なのかなとは思いますが、結局中学生もものすごくやっぱり自然科学には興味があって、各作品で何かすると僕らがびっくりするような研究をしております。やっぱりそのベースになるのは小学校のときのいろんな体験であつたりとか、知識であつたりとかだと思いますので小学校にぜひぜひ、

このようなアウトリーチがあって行っていただけたら、県内広く網羅できますし、行きにくいところも助かるのではないかなと思いますので、ここの充実をまた図っていただきたいのですが、限界もあるだろうと思いますので、大体経費がこれぐらいというのと大体ここら辺の件数までだったら、年間行けるかなというのが、もしわかれば教えていただければ助かります。

議長）はい。今わかる範囲で結構です。

博物館）件数で言いますと小学校は、年間に 30 で、多くは行けてないです。と言いますのは、ご案内の通り、マンパワーの問題がどうしてもありますので、なかなか難しいです。経費に関しては、「ゆめはく」運行込み、ワークショップ込みで職員、スタッフが 3、4 人行って 5 万円ぐらいの予算です。これにはスポンサーといいますか、小学校のアウトリーチに活用してくださいとお金を出してくださる財団がございます。そのご支援によって、今、やっているところです。

議長）中学校向けには行っておられますか。

博物館）レギュラーとして行ってないですね。それは中学も高校も行きたいと我々も思うのですが、なかなか先ほどのエコロコの方で幼稚園、保育園に年間ものすごい数に行くことができるのは、スタッフの人件費込みで分任をいただいているので、それで、これだけ行くことができるという事情がありますので、是非とも、例えば県の義務教さんの方でその分の予算措置していただいて、是非うちに学校のアウトリーチ専門のスタッフがプラスアルファで配置していただければ、我々としては行きたいです。

どうしても地域格差というのがありますので、兵庫県、淡路から但馬までありますし、フラワータウンに近いところは交通の便がいいけれども、今おっしゃった三木の子供たちが来るのは難しいので、県立の施設としては、できるだけその格差を解消したいと思っています。

委員）中学生向けにもできるということは、もうすごく興味深いお話です。今、部活動地域移行になって、放課後の子供たちの生活は、多種多様になると思います。学校単位でいろんな活動を行われているのは学校の枠を外れて興味がある人達の集まりということになってきたときに、例えば地域の公民館であるとか、コミュニティーセンターだとかそういうところで自然科学に興味のある子がいたときに、ここにお願ひしたら来ていただいて、ちょっと勉強会とかなんかできたらすごく素晴らしいなと思います。ぜひぜひまたそういうときはよろしくお願ひいたします。

議長）ありがとうございます。社会教育関係で、何かございますか。

委員）今、先生のお話を伺って、私もまさにそれを思っていました。部活の地域移行は、神戸市が来年度からですかね。西宮も再来年度からということで、どんどん始まっていく。まだまだ中身はわからないのですが、おっしゃった通り、興味のある子が集まるという場ができるので、非常にそこが面白いなと思って、ぜひひとはくさんに展開していただきたいなと1つ思っていたところがあります。

もう1点気になるのは、不登校の子供たちに関することです。不登校の子供たちに対する対応が、多分また来年度からも大分手厚くなってくることがあると思います。兵庫県の教育委員会さんに関してもですね、これまでは学校という枠なんですけれども、それとも違うけれども徐々にそういう子たちにも手を伸ばしつつあるというところがあるので、ぜひモデルケースでも良いので、そういう不登校の子供たちが集まっている場所ですとか、団体グループみたいなところと何か、事業を1つでもしていただければ、多分すごく噂って広がるので、そういう子たちと繋がりやすくなるのかなと思いますので、ぜひそこも期待したいなと思ってお聞きしていました。

博物館）博物館のセミナーには不登校みたいな子もふつうに参加しています。そういう事情をあまり意識しないのが、社会教育というか、博物館の教育サービスのいいところかなというのも一方で思いますので、こちらとしてはあまり強調していないというのがあります。

博物館）不登校関連の取り組みというか兵庫県の神出学園という、いろいろな事情で学校に行けていない学生が通う学校がありますけれども、その神出学園の持続可能な開発のための教育のプログラムとして本館の研究員は、私がこの2年間出たのですけれども、そこで彼らの学習の支援をしたりして、それをもうちょっとこう、ひとはくの研究員、いろんな専門性があるので、多様な研究員が行ってサポートできないかということが1つと後は、先ほど申しましたように、おそらくいろんな活動を個人的な関心でひとはくに通っている子供の中にはそういった子もいますけれども、やっぱり博物館としてありとあらゆる子供たちが、学びの、学びたいと思ったときにその場を作ったり用意するということは、ひとはくの将来ビジョンの中に、ダイバーシティ＆インクルージョンということで大きな目標として、館では共有しながら活動を進めているところです。

委員）事業推進部長のおっしゃることも、もっともだと思ってお聞きしていました。とはいえ、D&Iと一緒に、ウェルカムであるという姿勢を、その方々に示すという

のも非常に重要だと思います。ぜひ何かきっかけを持って、つなげていただければなと思いました。

議長）はい、ありがとうございます。他いかがでしょうか。はい、お願いします。

委員）いろいろとご説明いただきありがとうございました。私からは、この報告概要の資料1の10ページの利用状況について、お子さんの数が今減ってきている中で、来館者がまた戻ってきているというか、大変順調に推移しているというのがよく理解できましたけれども、子供が減ってきている中で、これだけの人数が確保できているというのは何か、もし、内訳のデータみたいなものがありであれば、教えていただきたいなと思いました。

それと全体的な印象として、先生方が非常に高いレベルの研究をしてらっしゃるのはよく存じ上げているのですが、それをまた一般の方に、わかりやすく説明されているというようなことが、理解できたところです。

先ほど、会議が始まる前にちょっと時間があつたので、フロアの方に伺って左手のところに、こういうこの字で先生方が今何をしてらっしゃるかっていう（ミニ企画展ひとはく研究員2025「研究員の秘密道具」）展示コーナーがありまして、どれも興味深く感じました。例えば自然・環境マネジメント研究部環境計画研究グループの研究部長（VRを用いた街路樹の評価）のところは、街路樹の間隔をどのぐらいにすると安心感が得られるとか、あまりそれが密になりすぎると逆に枝と枝の生育の邪魔をしあっているとか、あと先ほどご説明いただいた企画調整室長の（雨と共に生きる人間のあり方で）文学的な涙、そういうふうな視点で、自然というか人間、人を見ているのだなと。他の先生方（の研究）も大変興味を感じました。

1つ先ほど質的なというようなご指摘もございましたけども、物も、どこかで見える形があると、もうすでにそういう形をとられているのかもしれませんが、より良いのかなというふうな印象を持ちました。

議長）ありがとうございます、あとのご意見ですけれど、利用状況について、内訳とか、私も、関連してリピーターの割合とか、新しく入った人とかそのあたりはやっぱ非常に大事な枝葉かなと思いますので、それを含めて、もしわかれば、お願いいたします。

博物館）今日も実は幼稚園の園児さんがたくさんバスでお越しいただきました。先ほどお話がありましたけれどバス代が高騰するということで学校・園としても出にくい。当館も今、駅前の開発で実はバスの駐車場が少なくなっております。そんな中でお越しいただけているのは何なのかなというのは、館の職員で話をしているんですけど、

これはリピーターの話も絡んでいくのですが、実はアウトリーチで行った幼稚園の子供さんたちに、博物館に来たら記念のシールを渡しますよというものを、エコロコのプロジェクトの中で渡しております。そういった形で、外に行ったときに、来てくれたらプレゼントあるよというところで、次にやってきてくれるとき小さい子供さんには必ず保護者がついてきます。そうしましたら、保護者は保護者でまた親の目線で、当館の展示を楽しんでいただけます。そういったことが広がっていているという循環がひとつの要素としてあるかなと感じております。

今幼稚園と、保育園の方でこういったことしております。

小学校の団体さんは、当館にお越しいただいたら大体2時間ぐらいでお帰りになります。別のところの目的地もあったり、どこか行ってきて当館に来る。そうすると2時間では子供たちの興味関心がすべて充足するという状態ではないので、その子供さんたちに、また今度、団体の来館以外でお越しいただいたら、何かプレゼントできないかということも、今エコロコと生涯学習課等で、実際次年度に向けて話をしております。そういった仕掛けによって、来館者リピーターを増やしていけたらというところを考えているというところで、的を射た回答になっているかわかりませんが、そういったところで、どんどん好循環を生み出していきたいと考えております。

議長）ありがとうございます。よろしいでしょうか。はい。

博物館）その関連でちょっと補足説明ですけれども、実は数年前に、大規模な来館者調査をやりまして、どれぐらいの方がリピーターで来られているのかを調べたことがあります。その数字を忘れてしまい、ご紹介できないのですけれども、我々の感覚からいきますと、結構たくさんの方がリピーターでこられているのだなあと思ったということがありました。

どうして多くのリピーターが来られているのかということなのですが、アンケート調査にいろんなことが書かれていたのですけれども、やはり当館は体験プログラムが非常に多いと。

普通の博物館ですと、常設展示と企画展があって、展示も常設展示の場合は1回見たら、もうしばらく見なくてもいいなという感じになってしまうんですけども、こちらはもう毎週、土日にも必ず何らかの体験プログラムやっておりますし、第1日曜日はキッズサンデーという子供向けのプログラムをもう朝から閉館までずっとやっていたりしますので、それをねらって、多くの方に何回も足を運んでいただいていると、そういうような状況がございます。

議長）ありがとうございます。この10ページには、本館・キャラバン・共催・恐竜関係・コレクションariumとありますが、さらにいろんなアウトリーチ活動とか、いろ

んなところに出向いていっておられるので、そこで繋がった人々がどう動いているかというのは、博物館にとってものすごく大きな財産じゃないのかなあとと思います。それと、財産である、あると同時に次の戦略を打つために非常に大切じゃないかと思うますので、数年前の調査だということですが、そろそろまた、その辺りも含めて、それぞれの何か企画ごとにそういう取り組みをおやりになっても面白いのかなと思います。ご検討願えればと思います。

まだ発言していただいてない委員、何かお願いできますでしょうか。

委員）幾つか質問と、それに関連してご提案をさせていただきたいと思います。資料1の11ページに目標、ベンチマーク、達成状況等々、記載いただいている、去年も特にデジタルアーカイブ化のところで、いろいろとお話をしたような記憶があるのですが、去年の数字を実は今見えていますと去年の12月の時点で1390点だったのが、今年の12月時点で、累計の数字が、938で落ちていますよね。累計、これ令和5年から9年が、これが累計だとすると、令和5年の数字と6年の数字を足して、もっと増えているはずなのに、ここだけ下がっているのがなんか気持ち悪いなと思っていました。

上の登録点数は去年より今年の方が、倍以上増えているので、これ、なるほどなというのがありましたので、この数字の謎をちょっと教えて欲しいというのが1つです。

この標本収蔵品の関係ですね、昨今、博物館もそうですし美術館もそうですけども、すごく持ち込まれるお宝が多くて、収蔵品がもう爆発的に増えて、保管ができない、物によっては廃棄処分をするみたいなことが出始めている中で、ひとはくの収蔵庫のキャパというのが、あとどれぐらいなのか。それに関連すると、この館も、平成4年か、できて33年経つんですよね。そろそろもう老朽化で、建て替え云々みたいなアセットの話が出てくるのだろうなと。蛍光灯も多分LEDにしないといけないうとか、もういっぱい、いっぱい、ここ、難題が出てくる。その収蔵庫の関係とかどうなっているのかなっていうのをお聞きしたいというのが質問です。

それに関連してご提案ですけれど、私も市内、いくつかの地域づくりをお手伝いさせていただいていて、三田市の小学校も遅かれ早かれですが、それに先行して幼稚園の統廃合が結構進んできていて、廃園になった幼稚園の跡をどうにかしたいって地域の方々からご相談を受けることがあります。議論すると地域にあるお宝を、用途の転用がなく、なかなかしにくいので、何するかってしたときに、地域のお宝をそこで集めて、展示できるようにしたいみたいなご相談を受けたりします。すると、まさにそのお宝を、収蔵して、保管して或いは展示してみたいな。

プロがこの館にはいらっしゃるはずなので、もし収蔵し切れないようなものが、これからどんどん出てくるのであれば、地域の中にサテライトとして、そういう保管して展示するような場所を作っていく、サテライト的に作っていくみたいなことを考えてもいいのかな。アウトリーチでその地域に出向いていって何か教育するだ

けじゃなくて、地域のお宝と一緒に地域で守るみたいな取り組みも手がけていかれると面白いかなと（思います）。

議長）ありがとうございます。収蔵資料に関するご質問と、ご提案でした。いかがでしょうか。

博物館）数字に関しまして、重点目標４のデジタルアーカイブのところの数値が前年から変わっているというご指摘ですけれど、この新しい指標について内部で議論がありまして、算定根拠をいじったというのが実態でございます。

博物館法が改正されまして、京都国立博物館さんがおられますのでおききたいところですが、デジタルアーカイブっていうのをどうしていくかという課題になっています。人手がかなりかかるので、これをどうしていくかというのは試行錯誤をこれからしていくような状況かなと思っています。

それと当館のキャパに関しましては、新しくコレクションナリウムができましたので、若干余裕はできましたが、おっしゃるように未来永劫空っぽというわけにいきませんので、ご提案のような地域の資料は地域でというのは、まさに今地域連携セミナーのお話も差し上げましたけれども、地域連携推進室というのを我々は作りまして、そういう地域でいろんな施設がありまして、実際いろんな相談なんかも受けているのですけれども、なかなかそれぞれの地域でも、資料をしっかり保存継続できるような人を置くのは難しいという実情があります。そういうところに対してどういう支援をしていくかっていうのも、今後の地域連携の課題であろうと思いますし、おっしゃる通りやっていきたいところかなと思っています。

議長）ありがとうございます。

委員）今ちょっとデジタルアーカイブの話が出たので、京都国立博物館ですけれども、かなりデジタルアーカイブを進めなくてはいけないということで、その専用の人員をつけたりとかで、やっぱり人手がいるということで人手をふやす体制にしつつあるところですが、ひとはくの場合は、そういったその専門デジタルアーカイブのための専門の人はいらっしゃるのでしょうか。

博物館）ほぼいないです。「みなさんやってください」と言い続けているだけなので、なかなか数字が上がらないというのが実態であります。

委員）ありがとうございます。やっぱり大変な事業ですよ。あと個人的に別の話になってしまいますが、何回もこれまでも来館者アンケートとか、質的な評価とかとい

うお話出てきて、本当にこれだけ素晴らしいことをされているので、何とかそれを、何か影響力を数値化できたらすごくこの意義も示せるのかなと思います。

さっき、リピーターが多いっておっしゃってまして、それはやっぱり来館者アンケートからわかっていたことと思いますが、確か岐阜市、美濃加茂市ミュージアムさんだったと思いますが、必ず小学生のときに団体で来るようになっていて、彼らに20歳になったときに、成人式で、子供のときに博物館に来たことがどれぐらいあなたの人生に影響を与えていますかとか、その後大人になってから来ましたかというすごく長期的な視点で、アンケートされていてすごく面白いなと思っていましたが、その結果を何かのときちょっとお話を聞いたのですが、実は子供のときに来ていたら大人になっても来るだろうと思いきや、そうじゃなかったという結果が出たという話を（聞いて）びっくりしたのですが、それは何かというと学校で行くところだというすり込みがどうもその時にイメージができてしまったようで逆効果という面もあったのではないかと思います。かみみたいなことがあって、ただ、そのひとはくさんの場合はリピーターが多いってことは、多分、プライベートでも来られているということですかね。その学校とは違う楽しい体験ができて楽しい思い出ができたから、ちょっと学校で行くところだけではなくて、もう1歩踏み込めたかなと思うとね、何かその辺でしょうね、理由というのは。長期的なアンケートもできたら、すごくこの博物館がどうしてこんなに人が来るのかとか、良いとか、これからどうしていくべきかなども見えてくるのかなと思います。

議長）はい。ありがとうございます。先ほどの有馬富士自然学習センターのところでは、ずっとこう、子供から幼稚園から小中高大と連続しているというのは、すべてデータとして残っているのでしょうか、それを公にしてみようというのは、非常に大事な話かなと思います。

今後また検討できたらと思います。それから、先ほどの収蔵資料に手間がかかって、という話はもう大体予想されていて、確か令和5年度のひとはく将来ビジョン2032の中で、そういう専門員を付けましようとかいう話をしていたという気はするんですけど。なかなかそのあたりは、予算措置が難しいということですが、非常に大切なことなので、先ほどのこのLED、この本館の改修というのも大きな課題として残っていると思いますので、ここで改めてその課題を共有化しておきたいと思います。

委員）キッズサンデーとかは割とライトなお客さんというか、これからコアになっていくお客さんを集客するためのイベントだと思いますが、そういったイベントを行われるときの広報の仕方とかをできたら教えていただけると嬉しいです。

博物館）キッズサンデーも含めた博物館の毎月のイベント情報というのは、アナログ

なチラシを作っておりまして、それを周辺の幼稚園とか、近隣の学校に撒いたりしておりますが、先ほどのリピーターの話もそうかもしれませんが、SNS その他で楽しげな情報が各地に自然に拡散していくことによる効果は大きいと思います。3月のついこの間のキッズサンデーでもそうだったんですけど、天気も悪いし、駐車場も有料になったから人は少ないかなと思っていたにもかかわらず、結構たくさん来てくださったのは、やはり口コミの効果が大きいのかなというのを感じているところです。

委員）はい。ありがとうございます。

委員）社会教育委員を担っております。そして私は、専門が保育幼児教育ですが、先ほども入場者の利用者数か、子供の利用者がそこを底上げしているというお話を伺うことができました、とてもうれしく喜ばしく思っております。

今年度も資料1の11ページに、中期目標の達成度を数値で見える化してくださいましたので非常にわかりやすく、振り返ることができました。

先ほどからの情報発信のことが1つの大切な視点になっているのかなと思います。この重点目標5のホームページのアクセス件数、これが達成率57%ということで、カウント方法の変更によるものだというご説明もあったのですが、今はもう本当にSNSが主流になってきていると思います。例えば、Instagramなどによる配信とか、情報発信等はなされているのでしょうか。

今、もう本当に学校や大学や、公共の施設なども、もうインスタですね、公式のInstagramで配信が一般的になっているのかなと思います。せんだってちょっと私も興味深く、こちら博物館のインスタがないかなと思って見たのですけれども、ちょっと見当たりませんで、逆に、利用された利用者さんがどんどんSNSにあげておられます。

ひとはくに行ってすばらしかった、子供は無料だよとか駐車場もあるよってこんな楽しい1日過ごせたよっていうことを、インスタはもう写真と動画でバツと流してくれますので、いくつも何件も、ひとはくのインスタがあがっていました。

情報配信ということであるならば、もう今はパソコンではなくてもスマホですぐに情報を得る時代になっていますので、公式のインスタとか、ツイッターはあるのでしょうか。フェイスブックとぜひインスタも公式のものを作成していただけたらと個人的には思っております。

博物館）失礼します。今、副館長からもありましたが、確かにXとフェイスブックとあとYouTubeも以前やって、今、ホームページの一番上のところに、この3つはすぐアクセスできるようになっております。

インスタも当然我々生涯学習課にいるものは比較的学校現場にいたものが多いの

で、そういった話は出ておりますが、Xの方を実質生涯学習課の方で、本当に普通の仕事をしながら、別のものが、教員向けのセミナーありますよってPRをしております。

フェイスブックの方は研究員の方が、研究員でしか見えない角度でPRをしております。そのInstagramが課題になっているところは認識しながらなんですが、SNSの複数というところを対応できる人員が、今いないというのが正直なところになります。

Xをすることによって先ほどの研究員の恐竜に関する報道等も、いろいろ広がっていったっていうのがこちら実感しておりますので、SNSの有効性というものは、重々感じながら、また館の方で何かインスタもどうしていくかっていうことは考えていけたらいいなと思っております。

委員）情報提供だけですが。チラシをアナログでまいていくのは、これまでもずっと小学校、中学校でしているのですけれども、やっぱり長期休業中の前は非常にチラシの数が多いです。1日多いときで10枚ぐらい配ります。

それを避けるために今、デジタル配信が増えています。三田市も今年度から、デジタルで配信していこうとするのですが、近隣市町の話聞いてみると、1日それこそ10枚ぐらい案内が来て、それを毎回PDFで開くというのが大変な作業で、結局見なくなってしまうという実態があります。

ですから、この辺のバランスを考えると先ほどおっしゃられたように、やっぱりインスタとかを使っていかれる方が、より有効な発信力になるのだろうと思います。

議長）ありがとうございます。

Web参加の委員のコメントの紹介をお願いします。

事務局）はい。失礼します。Web参加の委員からダイレクトメッセージをいただいておりますので、ご紹介させていただきます。

「県立ミュージアムが5つの地域に分散していますので、どうぞ神戸にある当館、県立美術館をショーケースとしてお使いください。移動博物館車においでいただくとか、やりようはいろいろあると思います。」というコメントをいただいております。

議長）ありがとうございます。今のご意見をふまえてまた、社会教育施設間の連携を進めていただければと思います。

博物館）これまでもいろいろさせていただいた経験がありますので、また機会を見て、美術館さんに限らず、県立5館といろんなことやっていければと思います。

議長）今日ご欠席の委員からは何かコメントとかありますか。

事務局）はい。失礼します。ご欠席の委員からコメントをいただいております。

「県の理科部会など関係団体とも引き続き連携を図っていただき、県立学校での教育活動の充実にご支援いただきますようお願いします。」というコメントをいただいております。

議長）ありがとうございます。これも博物館の方で、これまでと同様に対応していただければいいかなと思います。

いかがでしょう。一通りいただいたのですが、何かご発言がございますか。よろしいでしょうか。

貴重な意見をいただきましてどうもありがとうございました。
これで終了したいと思います。